

健

康

徳大病院
元気を
支える
医療



江口 覚

歯科麻酔科
総務医長・講師

歯の治療では、緊張や痛みなどで患者さんの血圧が変動したり、動悸が起きたりして体調が悪くなる場合があります。特に高血圧や狭心症、糖尿病、心臓から全身に送り

病などの持病を持つ人の治療の場合は、体の状態の変化をリアルタイムで見守り、治療中の安全性を確保するために、さまざまなモニタリング機器が使われています。

こうした患者さんの体への負担をできるだけ少なくするために開発されたのが、非侵襲連続推定心拍出量（esCCO）

体調変化 機器で監視

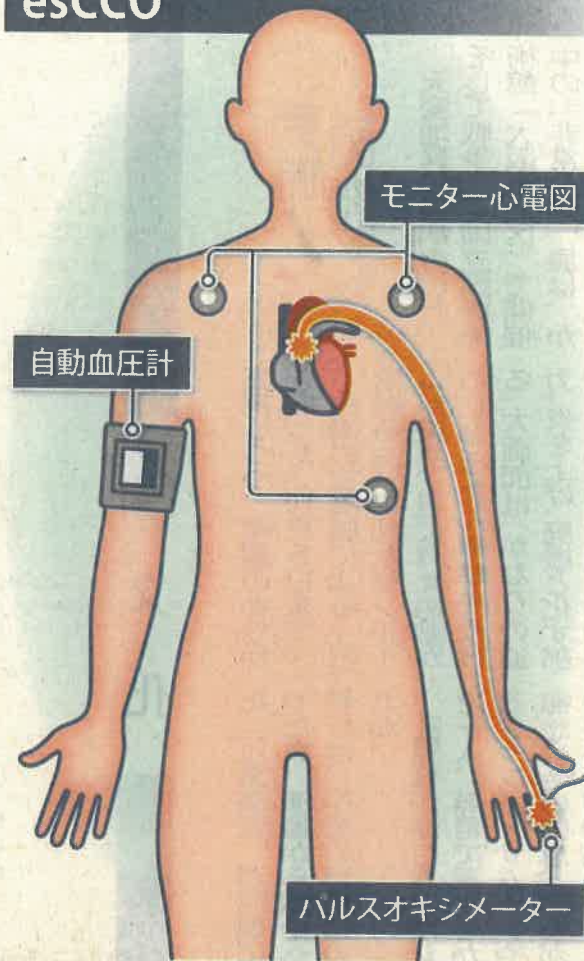
出される心拍出量（血液量）を連続的に算出できます。これによって心臓の働きを確認しており、治療中に体調が急変しても迅速に対応できるようになっています。

以前は心拍出量を調べる際、頸部や足の付け根の血管からカテーテルを入れ、心臓を通して肺静脈まで挿入する必要がありました。esCCOでは、カテーテルを挿入する際に血管を傷つけることがないという利点があります。

また、精神疾患などのため、歯の治療を怖がる患者さんは少なくありません。口の中に異物が入ると吐き気をもよおす

局所麻酔に使う薬剤にはアドレナリンという成分が含まれており、麻酔効果を高める働きがあります。ただ、副作用として動悸が起きる場合があります。注射後、数分以内に発生して10分ほどでなくなっていくます。不整脈や高血圧などの持病があれば、副作用が強く現れることがありますので、事前に歯科医師に伝えてください。患者さんの体の状態を考慮し、副作用の少ない最適な麻酔薬を選択します。

esCCO



歯科治療の安全性確保